

パラグアイ内政・外交報告（2022年3月分）

政治情勢

1 内政

（1）サラテ新教育大臣の就任

3月14日、コロラド党大統領候補として2023年大統領選に立候補する意向を示しているベラスケス副大統領に、自身のペアとなる副大統領候補として指名され、辞任したブルネッティ前教育大臣の後任として、ニコラス・サラテ新教育大臣が大統領府で宣誓式を行った。サラテ大臣は、教育省官房長、リエラ元教育大臣辞任時（2021年3月）の大臣代行、高等教育副大臣等を務めた経験を有する。

（2）海外在住パラグアイ人の投票に関する外務省と最高選挙裁判所との協定

3月15日、外務省と最高選挙裁判所の間で、海外在住パラグアイ人の2022年党内選挙及び2023年総選挙の投票に関する機関間協定が署名された。本協定により、両機関はそれぞれの権限の範囲内で、法的規定に従って、海外在住パラグアイ人の選挙プロセスへの参加を促進及び保障するための作業戦略を協調して実施することが可能となる。

（3）外務省とニホンガッコウ大学との協定締結

3月16日、外務省とニホンガッコウ大学（アルバレンガ上院議員（上院パ日友好議連会長）夫妻が設立・運営する私立大学）の間で、両機関の協力強化を目的とする協定が締結された。カルドソ外交官学校校長は、外務省は外交が人文知識・科学分野における国際協力の架け橋になると認識していると述べ、オルテガ学長（アルバレンガ上院議員の夫）は、社会に大きな影響を与える複雑な目標を達成するためには相互協力が重要であり、外務省の大学教育への支援を高く評価していると述べた。

（4）農民団体によるデモ行為

3月24日、全国農民連合（FNC）は、第28回全国農民デモを首都で実施した。今次デモには、先住民族も参加し、約5千名の規模となった。23日、農民諸団体の代表は、同デモ実施に先立ち政府や国会の代表と面談し、私有地への不法侵入を10年以下の犯罪と定める「サバラ・リエラ法」の廃止等、都市・農村地域に影響を及ぼす諸問題への対応を訴えた。行政府からは、ゴンサレス内務大臣、立法府からは、ソロモン国会議長及びペレイラ上院副議長が出席した。

（5）下院におけるキニョネス検事総長への弾劾裁判動議の否決

3月22日、下院は、腐敗事案への対応が恣意的である等の理由で提出されたキニョネス検事総長への弾劾裁判動議を、賛成37、反対32、棄権6（欠席5）で否決した（注：可

決には出席議員の3分の2の賛成が必要)。キニヨネス検事総長は、カルテス前大統領に近い人物とされており、与党コロラド党のカルテス前大統領派は反対票を投じることが確実視され、実際反対票を投じたが、当初賛成票を投じると考えられていた与党の現大統領派の一部等も反対に回ったことにより、今次動議は否決されるに至った。

2 外交

(1) 国連麻薬委員会への出席

3月14日～18日、第65会期国連麻薬委員会がハイブリッド形式で開催され、ロロン麻薬密輸対策庁（SENAD）長官が出席した。同会議には、厚生福祉省、検察庁、外務省関係者及び駐ウイーン・パラグアイ大使が同席した。同長官は、米州機構（OAS）の米州麻薬乱用取締委員会（CICAD）の副議長及び、麻薬に関するCELAC・EU協力調整メカニズムの共同議長として、多国間主義に基づくパラグアイ政府の取り組みに言及した。また、麻薬密売に対する成果として、2021年は2億4100万ドルの経済的損害を与えたほか、代替、統合、持続可能な開発といった他の分野の成果も強調した。さらに、大麻やカナビスの産業及び医療利用についても言及し、世界の薬物問題に効果的に取り組み、設定した目標を達成するためには、国際協力が不可欠であると強調した。

(2) アセベド外相のアルゼンチン訪問

3月18日、アセベド外相はアルゼンチンを訪問し、カフェイロ亜外相と会談した。今次会談では、クロリンダ - ナナワ間及びプエルト・カーノ - ピラール間の国境開放につき協議した。カフェイロ外相はアセベド外相に対し、二国間の議題に関する対話を深めるため、4月の第1週にアスンシオンを公式訪問することに関心を示した。

(3) ベラスケス副大統領のドバイ訪問

3月22日、アラブ首長国連邦を公式訪問中のベラスケス副大統領（与党大統領候補の一人）は、アブダラー・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン外相と会談した。会談でベラスケス副大統領は、パラグアイの食料生産国としての潜在性や投資先としての魅力、現在建設中の両洋横断回廊等の連結性強化に資するインフラプロジェクトなどをアピールした。

(4) パラグアイ外務省によるゲデス伯経済相発言への抗議

3月21日、パラグアイ外務省は、18日にゲデス伯経済大臣が行った「パラグアイは、低税率であることを利用して大市場であるブラジルへの輸出により利益を得ることにより、実質的にブラジルの一州と化した」との発言を完全に拒絶するとして抗議を行った。同抗議は、スカッピーニ筆頭外務副大臣から駐パラグアイ伯臨代に対して行われた。